

# 新しい社会と子育て

## 2010年版

野田俊作

### 4歳の男の子

ミルクを飲もうとして、コップをひっくりかえして、テーブルのうえにこぼしてしまった。



### 従来への対応

1. 「気をつけないければ駄目じゃないの」と叱る。
2. 親が布巾でこぼれたミルクを拭く。

### 小学校1年生の姉と4歳の弟



「お姉ちゃんが玩具を貸してくれない」と、弟が姉のことを言いつけに来る。

#### 従来への対応

1. 「お姉ちゃん、貸してあげなさい」と叱る。
2. 「そんなに喧嘩をするなら、玩具は預かっておきます」と、取りあげる。

### 小学校4年生の女の子

忘れものが多いので、学校から「忘れものをさせないように協力してください」と言われた。

#### 従来への対応

1. 毎日うるさく言い続ける。
2. 時間割を手伝う。



### 小学校6年生の男の子

勉強も面倒くさいというし、クラブも入らない。なにもしないでゲームばかりして毎日をすごしている。

#### 従来の対応

1. 勉強するように叱る。
2. ゲームをする時間を制限しようと話し合う。
3. ゲームを取りあげる。



### 4歳の男の子

ミルクを飲もうとして、コップをひっくりかえして、テーブルのうえにこぼしてしまった。

#### 従来の対応

1. 「気をつけないければ駄目じゃないの」と叱る。
2. 親が布巾でこぼれたミルクを拭く。



**子どもはなにを学んだか？**

失敗しても親がなんとかしてくれる。

**親は何を学ばせたいか？**

自分で問題を解決できるようになること。

人と協力し分かちあって生活できるようになること。

**どうすれば学んでもらえるか？**

「どうすればいいかな？」：後始末

「こぼさないで飲むためにどういう工夫をすればいい？」：今後の工夫

**失敗は責任を学ぶチャンス**

子どもが失敗してしまったとき、子どもは「責任をとる」ということを学ぶことができます。

「この子がちゃんと考えてちゃんと行動できるように、私にはなにができるかな？」と考えてください。

罰することが目的ではなく、後始末をちゃんとすること、今後の工夫をすることが目的です。

大人が解決してしまうこともいけません、解決法を教えるのも、もったいない気がします。

子どもに問いかけるのは、いい方法です。

「どうすればいいかな？」と尋ねると言いましたが、他にも問いかけ方はあるように思います。

### いつも育児の目標を意識しましょう

「子どもに何を学んでもらうチャンスかな？」

「それを学んでもらうために、私はなにをすればいいかな？」

### 子ども自身の力で問題を解決できるように

「私はこの子のために何をすればいいか」ではなく

「この子はみんなのために何をすればいいか」を考える

### 「言葉かけ」の育児から「問いかけ」の育児へ

「どうすれば？」と、子どもに問いかける。

いつも子どものことを思い、「この子のために」と考えている親は、実は子どもがとるべき責任を肩代わりしてしまっています。 — ルドルフ・ドライカース

## 小学校1年生の姉と4歳の弟



「お姉ちゃんが玩具を貸してくれない」と、弟が姉のことを言いつけに来る。

### 従来への対応

1. 「お姉ちゃん、貸してあげなさい」と叱る。
2. 「そんなに喧嘩をするなら、玩具は預かっておきます」と、取りあげる。

### 子どもはなにを学んだか？

困ったときは親に助けてもらえばいい。

「私は弱い」と主張すると要求を通せる。

### 親は何を学ばせたいか？

自分で問題を解決できるようになること。

人と協力し分かちあって生活できるようになること。

### どうすれば学んでもらえるか？

「どんな風をお願いしたの？」：方法の検討

「どうお願いしたら貸してくれると思う？」

：今後の工夫

## 喧嘩は協力を学ぶチャンス

子どもが喧嘩しているとき、子どもは「協力」ということを学ぶことができます。

「勝ち負け」ではなくて「分かちあい」で問題を解決する。  
すべての問題は、分かちあいでもって解決できます。

誰が正しく誰が間違っているかを裁判することが目的ではなく、  
和解できるように調停することが目的です。

裁判をすると、負けた側は復讐を誓いますから、いつまでも  
争いが続きます。

質問のしかたを工夫しましょう。

「あなたはどうしたいの？」

「そうするとどうなると思う？」

「どうお願いすればいいと思う？」

### いつも育児の目標を意識しましょう

問題を「分かちあい」によって解決してもらいましょう。

「それを学んでもらうために、私はなにをすればいいかな？」

### 子ども自身の力で問題を解決できるように

「私は私自身のために何をすればいいか」と考えるのではなく、

「私はみんなのために何をすればいいか」を考えることができるように。

### 「言葉がけ」の育児から「問いかけ」の育児へ

「悪いあの人、かわいそうな私」ではなく、「あなたにできることは？」と、子どもに問いかける。

みんなのために自分の知恵をどう使えばいいかをみんなが考えるようになれば、この世にパラダイス可以实现できるのです。  
— ルドルフ・ドライカース

## 小学校4年生の女の子

忘れものが多いので、学校から「忘れものをさせないように協力してください」と言われた。

### 従来の対応

1. 毎日うるさく言い続ける。
2. 時間割を手伝う。



**子どもはなにを学んだか？**

「したい」「したくない」で行動を決める。

困ったときは親に助けてもらえばいい。

**親は何を学ばせたいか？**

自分で問題を解決できるようになること。

人と協力し分かちあって生活できるようになること。

**どうすれば学んでもらえるか？**

- ①「忘れものをなくしたいと思う？」：目標の一致
- ②「そのためにはどうすればいいと思う？」：工夫
- ③「時間割はいつすることにする？」：決断を尋ねる
- ④「今夜しないとどうなると思う？」：結末の予測

**怠惰は論理的になるチャンス**

目先の気分で動いているときは、その結末がどうなるかを考えていません。

「そうしていると、どういうことが起りますか？」と問いかけることができますが、このとき陰性感情があると、子どもの勇気をくじいてしまいます。

結末について話し合える年齢と話し合えない年齢がある。

4歳以下の子どもに「どうなると思う？」と尋ねても、わからないことがあります。

10歳以上の子どもに「どうなると思う？」と尋ねると、それだけで勇気をくじいてしまうことがあります。

ですから、5歳から10歳くらいが育児のチャンスです。



### いつも育児の目標を意識しましょう

結末の予測にもとづいて行動できるように勇気づけましょう。

「それを学んでもらうために、私はなにをすればいいかな？」

### 子ども自身の力で問題を解決できるように

「私はなにをしたいのか、したくないのか」と考えるのではなく、

「私はなにをすべきか、すべきでないか」と考えることができる

ように。

### 「言葉がけ」の育児から「問いかけ」の育児へ

まず、目標を一致させる。そのためのアクションを勇気づける。

親にできることはたくさんありますが、その前に、してはならないことを知っておくべきです。

— ルドルフ・ドライカース

## 小学校6年生の男の子

勉強も面倒くさいというし、クラブも入らない。なにもしないでゲームばかりして毎日をすごしている。

### 従来の対応

1. 勉強するように叱る。
2. ゲームをする時間を制限しようと話し合う。



**子どもはなにを学んだか？**

「したい」「したくない」で行動を決める。

困ったときは親がなんとかしてくれるだろう。

なんとかしてくれなければ、親のせいしよう。

**親は何を学ばせたいか？**

自分で問題を解決できるようになること。

人と協力し分かちあって生活できるようになること。

**どうすれば学んでもらえるか？**

「大人になったら何をする？」：将来の目標

「そのためにはいま何をすればいいと思う？」：現在の決断

**無気力は人生を見つけるチャンス**

やる気がなくなるのは、目標を見失ったときです。

「自分の幸福のため」に生きていると、人生は無意味になります。

「人々の幸福のため」に生きていると、人生には意味ができます。

子どもは可能性。実現するには努力がいる。

子どもは粘土のようなものです。

粘土は、そのままでは使い道がありません。

それを食器にしたり、花瓶にしたり、瓦にしたりすると使い道ができます。

子どももそうなので、人々の幸福のために役に立てるよう、訓練を受けなければなりません。

**いつも育児の目標を意識しましょう**

「世のため人のために役に立てる人」になるように勇気づけましょう。

**子ども自身の力で問題を解決できるように**

未来の目標が決まれば、今なにをすればいいかが決まります。

今なにをしたいかから未来が決まることはないのです。

未来を決めないでいると、今すべきことがわからなくなります。

**「言葉がけ」の育児から「問いかけ」の育児へ**

自分の力をどのように世のため人のために使うか。

子どもに期待しすぎて勇気をくじくこともできますし、何も期待しないで勇気をくじくこともできます。

— ルドルフ・ドライカース

## ここでちょっと休憩



## 育児の目標

共同体に所属できるようになること  
家族・友人・学校・社会・国・人類

そのために

**人々は仲間だ**  
**私は能力がある**

と子どもが思えるように子育てをすること。

## 勇気づけ

子どもが「**人々は仲間だ**」「**私は能力がある**」と感じられるためには

子どもを対等の仲間として認めて、横の関係を保つ  
平等と同等は違います。子どもと大人は同じではありません。

子どもの能力（パーソナル・ストレンクス）を伸ばす  
不適切な側面に注目するよりも  
適切な側面に注目する。  
子どもの協力を感謝する。

共同体との関係を意識してもらう  
「自分自身の幸福のために何をするか」ではなく  
「人々の幸福のために何をするか」を考えてもらう。

## アドラー心理学の育児の特質

### 目的は

共同体に貢献できる個人を育てること。  
なぜなら、個人が人生の意味を見つけだせるのは、共同体に貢献しているときだけだから。

### 方法は

1. 個人のパーソナル・ストレンクスを見つけだし伸すこと。  
なぜなら、持っていないものは使えないから。
2. 賞や罰を用いなくて、勇気づけを用いること。  
なぜなら、自分の人生を自分の力で生きてほしいから。
3. 原因探しをしないで、解決目標から考えること。  
なぜなら、目標が定まれば方法は見つかるから。

ありがとうございました